

会員の皆様へ

日本放射線影響学会大会も第40回を迎えます。京都では第26回大会（1983年）以来です。今回は最近会員の方々の関心が深く、幹事の方々からの要望も多かったシグナル伝達とアポトーシスについて、放射線影響以外の分野で国際的に高い評価を得ている京都の2人の方に招待講演者をお願いしました。シンポジウム、ワークショップも、外国人を含め、会員に限らず、高い水準の学問的な討議をめざして、テーマ、演者を設定いたしました。一方放射線影響とは直接関係のない事件や論議で国民に不信感を与えていたり、原子力や非電離放射線などの分野では、安全性の科学的な裏付けを示すプログラムを組んでいます。

京都は放射線関係の研究に、第2次世界大戦以前からの伝統と実績を医学、工学、理学、農学など広い分野で有しています。今回の大会もその長い歴史のひとこまと位置づけ、学会会長の御同意を得て、第40回記念というような特別な企画はいたしませんでしたが、実り多かった大会だった、と評価していただけるようにしたい、と関係者一同願っています。

深まる秋の京都も楽しんでいただけたら幸です。

1997年11月

大会会長 武部 啓